

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter SMC 豊島 健治

## 金融トピックス ( 97 / 3 )

### やっぱり！日債銀の再建策

昨日の新聞各紙は第1面で日債銀の再建策を伝えた。今月21日にムーディーズから「投資不適格」と認定され、同行の金融債は市場で8%近くまで暴落し、最早市場に歩み寄りしか方法がない所まで追いつめられた格好だ。

しかし伝えられる再建策の中味を見ると、やっぱりといった感じを抱くのは私だけではない。思い切った再建策と評価する向きもあるだろうが、「オールジャパン方式で救済する」色彩が見え隠れする。

とすれば、日本の金融界の前途は暗い。大きくて潰せない 皆で助ける 体力消耗 ジャパンプレミアム拡大 競争力低下。これを市場がどう評価するか、重要な分岐点にさしかかった。

### トヨタ、決算対策の主役に

今年も1月から今月にかけて株式市場で大量のクロス取引が行われた。特に今月は3市場で54億株以上のクロスが振られ、3月決算に向けた厚化粧が施されたようだ。毎度の事とはいえ、いささか辟易してしまう。

今回の決算対策の主役はトヨタだった。トヨタ株を使ったクロスは4億株以上に達し、個別銘柄で断トツのトップ。株式相場全体が不振な中、業績好調で値上がりが続けたトヨタ株は格好の益出し対象となった。益出しを行った国内法人は愛知県豊田市のトヨタ本社に足を向けて寝られないといった気持ちではあるまいか。

しかし何時までこんなこと(クロス取引)を続けてゆく積もりなのか。クロスを振り続けたために、保有株式の簿価は上がる一方で、ROAは下がるばかりだ。こんな魅力のない会社の株を誰が買うというのだろうか。

### 証券総合口座解禁

日本版ビッグバンの一つの柱となるであろう証券総合口座が97年度にも解禁されるようだ。この口座は、給与や年金を受け取れると同時にクレジットや公共料金の引落しが可能となる点で、銀行の普通預金と全く同じ機能を持つ。

この事は、決済機能を銀行だけでなく証券

にも開放するという点で、銀行の聖域を崩すものとして注目される。

### 信金合併相次ぐ

先月、千葉信金と両総信金の合併が発表されたが、最近全国的に信用金庫の合併発表が相次いでいる。

大坂では今秋8つの信金が合併して4信金に統合される他今年8件の合併が予定されており、各地で信金再編の動きが活発だ。金融制度改革での競合激化に強い危機感を持っていることが背景にあるのだろうが、地域金融機関のこうした再編のうねりは業態や地域を超えて広がる様相をみせてくるだろう。

### 簡保、外債投資を拡大

簡易保険はこれまで控えてきた外国債投資を積極化するという。

円高修正で過去の外債の含み損がようやく解消したこと、低金利で国内の投資対象が乏しいことがその背景で、1兆円を超える積み増しが見込まれている。

国内最大の機関投資家である簡保マネーのこうした姿勢変化は、外為市場でのドル高・円安要因の一つとして注目される。93~95年の円高と正に逆の動きである。

### 米大手証券、ロンドンで日本株勧誘

ゴールドマン・サックスやモルガン・スタンレー等米系証券がロンドンで機関投資家に日本株投資を呼びかけるセミナーを開催しているという。

国際分散投資の観点から、低迷する日本株式市場は「予定どおり規制緩和が進めば」投資のチャンスと見ているようだ。

### 地銀・第二地銀、相次いで赤字決算

今3月期決算で赤字決算になる地方銀行が相次ぐ模様だ。既に福德、泉州、池田、都民、関東、阪神、八千代の各行が今期決算を大幅赤字に修正する旨発表したが、全て不良債権償却と保有株式評価損が原因だ。

都銀と比べ不良債権償却処理が遅れていると見られる地銀も、外堀が徐々に埋められ、最早問題を先送りすることは出来ない状況とみていいようだ。これから5月決算発表まで監査法人を含めた動きには目が離せない。